

# 令和8年度稲積中学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：37505

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	課題
<p><b>これまでの 成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている生徒の割合が多いことが、共通指標から明らかになった。</li> <li>◇人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直そうとすることがある生徒の割合が多いことが、共通指標から明らかになった。</li> <li>◇振り返ってことを、次に生かそうとしている生徒の割合が多く、学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている生徒が多いことから共働して学び合う事ができる環境があることが分かる。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇共通指標から、「自分の意見を進んで発表しようとしている」生徒の割合が減少している。</li> <li>◇共通指標から、「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている」生徒の割合が減少している。</li> <li>◇共通指標から、「自分で計画を立てて勉強している」「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」生徒の割合がやや減少傾向にあり、主体的で計画的な学習習慣を身につけることが課題であるといえる。</li> </ul>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く<b>相互承認の感度</b>〉の現状と課題</p>	
<p>◇共通指標の「自己承認」「他者からの承認」「自己有用感」など相互承認の感度に関連する項目において、肯定的な回答の割合が増加傾向にある。子ども同士による行事後の相互評価の場を設定したり、各授業などでリフレクションの場면을効果的に活用したりするなどして自己肯定感・自己有用感を高める工夫をしていることがそれに寄与していると考えられる。今年度から、「つながりの再構築」を意識して、生徒と生徒・生徒と教師が対話を大切にしながら【みんなで学び合う】意識を高めながら学習活動を進めていくことが重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 「本物の経験」を通して成長を実感し、自ら学びに向かう力の育成

取組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇校内研究テーマ「生徒の『学ぶ力』を育成する。」 →生徒が自らAARサイクルを回す過程で要となる、単元における導入（イントロダクション）と振り返り（リフレクション）の工夫について実践交流を重ねていく。</li> <li>◇ICTの効果的な活用に関わる学習を行う。</li> <li>◇「学びの見通しをもつ場」や「自己決定の場」を大切に授業実践を重ねていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「子どもの声を聴く」ことを大切にしながら、生徒会活動を推進する。 →生徒総会学級議案審議で「子どもの声を反映させる」ための取組を実施</li> <li>◇生徒の意見を学校運営や行事計画に反映させるためにアンケートや対話型の集会などを企画し実践する。</li> <li>◇全校集会で定期的に【成長を実感し、心に残す】場をとして【INA-SHARE】を設定し、相互承認を高める取組を実施する。</li> </ul>

〈本プログラムの実行に向けて〉

